

南禪寺領加賀國得橋郷内益延・長恒兩名事、永代可停止國術籍之由、被仰國司了。可被存其旨之由、天氣所候也。仍執達如件。

本元上人禪室

十一月廿一日

右少將 在判

十月廿一日。後醍醐天皇、山城曼珠院慈嚴をして、同國南禪寺領能美郡得橋郷及び石川郡笠間東保等に白山宮等神人の亂入を停めしめ給ふ。

【南禪寺文書】 山城

三三〇

南禪寺領加賀國得橋・笠間等雜掌中、白山已下神人亂入事、永可停止之旨可下知之由、被仰慈嚴僧正了。可被存其旨之旨、天氣所候也。仍執達如件。

元徳三年

十月廿一日

右少將 在判

本元上人禪室

(笠間が笠間東保なることは、正安四年十一月廿二日の條に見えたり。)

元弘二年

壬申

正慶元年

四月廿八日  
京都改元

紀元一九九二

五月廿七日。幕府、村井又次郎入道知性の女伴氏に羽咋郡志々見保内の知行を安堵せしむ。

【永光寺文書】 鹿島郡

三三一

村井又次郎入道知性女子伴氏中能登國

志々見保内田壹町五段屋敷畠壹段事

右田島等者、舊夫吉見二位律師圓忠所領也。去嘉曆四年

三月十五日讓給氏女之間、知行無相違之處、去年三月令

離別之後、亂妨下地之由依訴中、爲亂明所下召符也。

如圓忠同七月十六日請文者、以被田屋敷讓与之後、亂妨

不實候。氏女下人等耕作云々。而如氏女重狀者、讓狀承

伏之間、押妨之咎不可積中云々、此上不及異儀、然則

於件田島等者、任圓忠讓狀、氏女之知行不可有相違者、

依鎌倉殿仰下知如件。

正慶元年五月廿七日

右馬權頭平朝臣 在判

(記條守時) 相模守平朝臣 在判

(嘉曆四年三月十五日の條参照。)

六月。山城臨川寺、故太宰帥世良親王家遺領加賀郡富永御厨以下の寺領を注進す。

【天龍寺文書】 山城

三三二

故太宰帥親王家御遺跡臨川寺領等目錄

(中略)

一、加賀國富永御厨

本家領家故親王家地頭請所之地也。年貢三百六十貫。但自正中之比地頭押妨。地頭足立并賑方等云々。

以上大宮女院御遺領、昭慶門院御相傳、同被進故宮。

(中略)

右所々年貢所濟井地頭等名字大概如斯。故親王御管領之時、面々給主各別之間、地下文書不召置本所、御年貢目錄分限也。然間庄務之文書不能注進者也。凡御領等或本家違亂、或地頭押妨之間、近年一向有名無實之處、今度又被下院宣、被付給主之間、寺領等轉變、御遺跡牢籠、不便之次第也。所詮任故親王御素志御寄附之趣、欲蒙御成

敗。委細載御事書、先度備進畢、仍粗注進如件。

正慶元年六月 日

六月。僧成知、鹿島郡永光寺に、羽咋郡志々見保内の地を寄進す。

【永光寺文書】 鹿島郡

三三三

寄進能登國酒井保洞谷山永光寺同國志々見保内

田地壹町五段畠地壹段事

右田島者、相副本主吉見二位律師圓忠讓狀、并御下知、姪

伴氏女讓狀、爲現當善業、奉寄進彼寺、限永代不可有

他妨。仍狀如件。

正慶元年六月 日

僧成知 在判

(嘉曆四年三月十五日及び正慶元年五月廿七日の條

参照。)

元弘三年

癸酉

正慶二年

五月廿五日  
京都年號止

紀元一九九三

三月六日。大法師定員、鳳至郡諸岡寺の院主職